



清心道中金時草鞋 十五

立山銀印

逍遙文庫  
文庫6  
1004  
15



文庫6  
1004  
15

越中<sup>あさひ</sup>立山<sup>たてやま</sup>方言<sup>ひょうげん</sup>修行<sup>しゆぎやう</sup>金草鞋<sup>きんくさじゆ</sup>

越中<sup>あさひ</sup>新川<sup>あたらしがは</sup>郡立山<sup>たてやま</sup>権現<sup>けんげん</sup>伊弉諾尊<sup>いさなのみこと</sup>力尾<sup>ちからのおし</sup>権現<sup>けんげん</sup>の社<sup>のやしろ</sup>

手力尾<sup>てちからのおし</sup>命<sup>のみこと</sup>なり富山<sup>とみやま</sup>の文武天皇<sup>ぶんぶてんかう</sup>大宝元年<sup>たうほうげんねん</sup>二月十六日<sup>にがつじゅうろくにち</sup>領主<sup>りやうしゆ</sup>

四糸大納言<sup>しよいとの大なごんごん</sup>有若卿<sup>あるわがきやう</sup>の嫡男<sup>のちやくなん</sup>有頼<sup>あるより</sup>卿<sup>きやう</sup>夢想<sup>むさうじゆ</sup>を感<sup>をかん</sup>ず

く糸五名寺<sup>くいとごなのみでら</sup>の慈<sup>のあはれ</sup>朝師<sup>あすし</sup>と謂<sup>をいわ</sup>ひ出家<sup>しゆげ</sup>しそ名<sup>な</sup>を慈<sup>のあはれ</sup>と改<sup>をかへ</sup>

満山<sup>まんさん</sup>を洞<sup>のほら</sup>なり立山<sup>たてやま</sup>権現<sup>けんげん</sup>の大宮<sup>のおほのみや</sup>あり

建<sup>たて</sup>浄土山<sup>じやうとさん</sup>を洞<sup>のほら</sup>なりと以<sup>をもち</sup>て予<sup>をこゝろ</sup>に

山<sup>やま</sup>の庄<sup>のぢやう</sup>巖<sup>のいわ</sup>奇<sup>のくさ</sup>異<sup>のい</sup>ふとて

の靈<sup>のりやう</sup>聖<sup>のせい</sup>場<sup>のぢやう</sup>なり

参<sup>まゐ</sup>詣<sup>ぎ</sup>の便<sup>のべん</sup>とありと事<sup>こと</sup>あり

文政十一年戊子春開市 十返舎一九誌

支

三



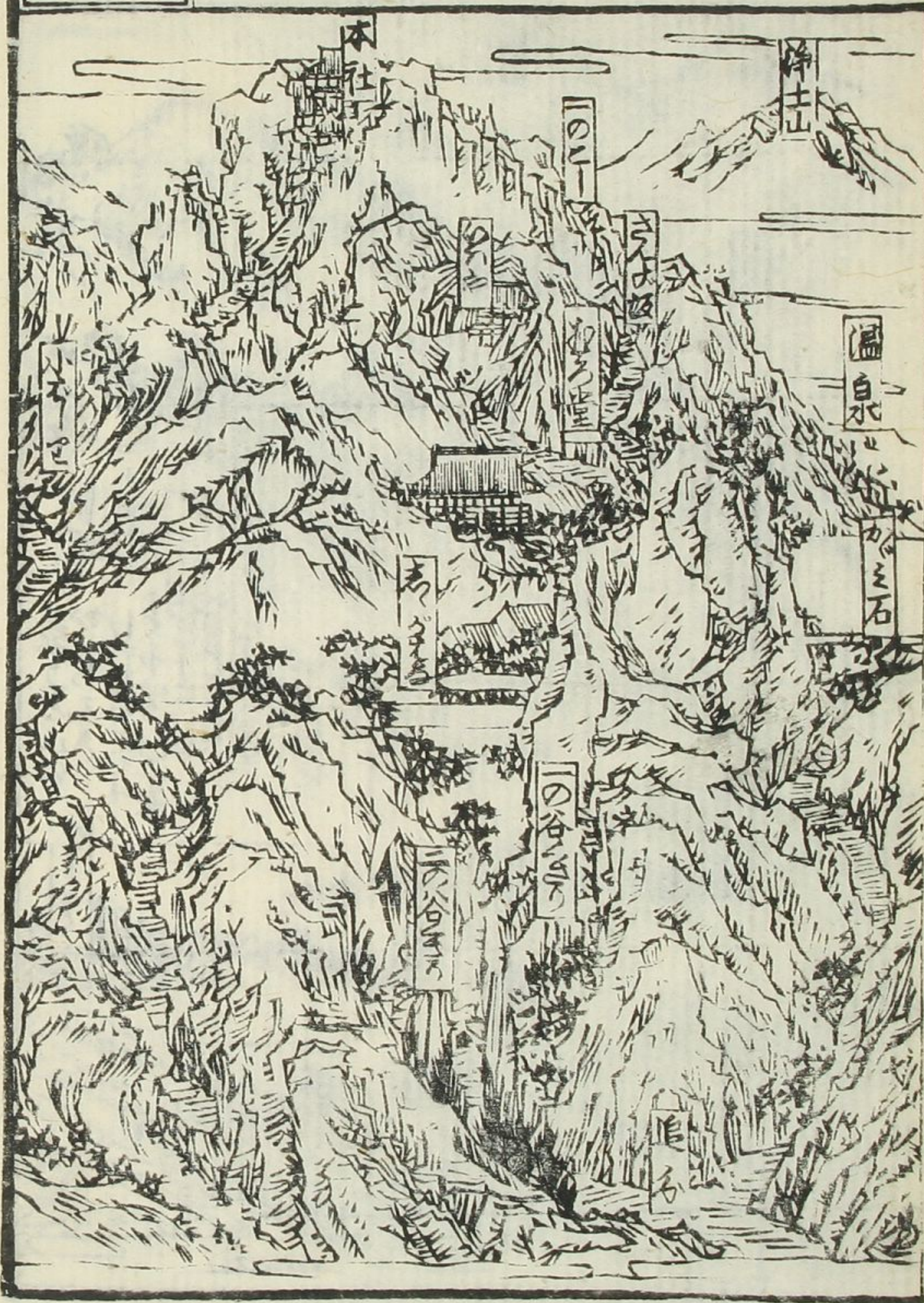
番つ之の山者左之中越



玉山壁立撫青  
 空鏡鏤接雲  
 梅月宮晚嚼  
 會仙壇畔雪  
 朗吟飛下  
 北溟風  
 鵬齊老人



其二



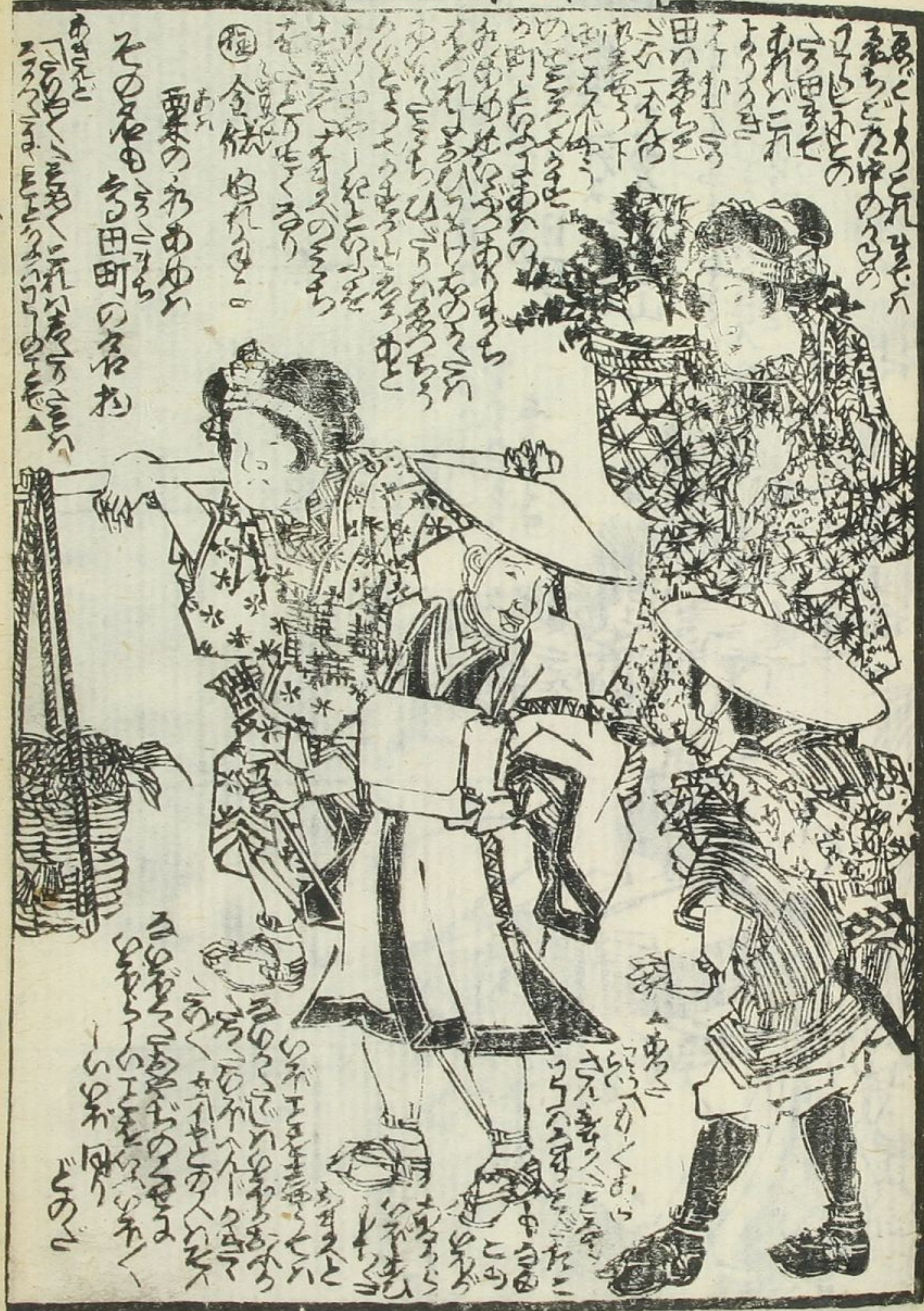
松平

山



五山め玉立  
とら古古雪  
三伏炎悪日  
今光行浄河  
次は海東村  
即之皆欲表  
研考人敬出

越後高田



その名の  
高田町の名を  
かたじけなく  
かたじけなく

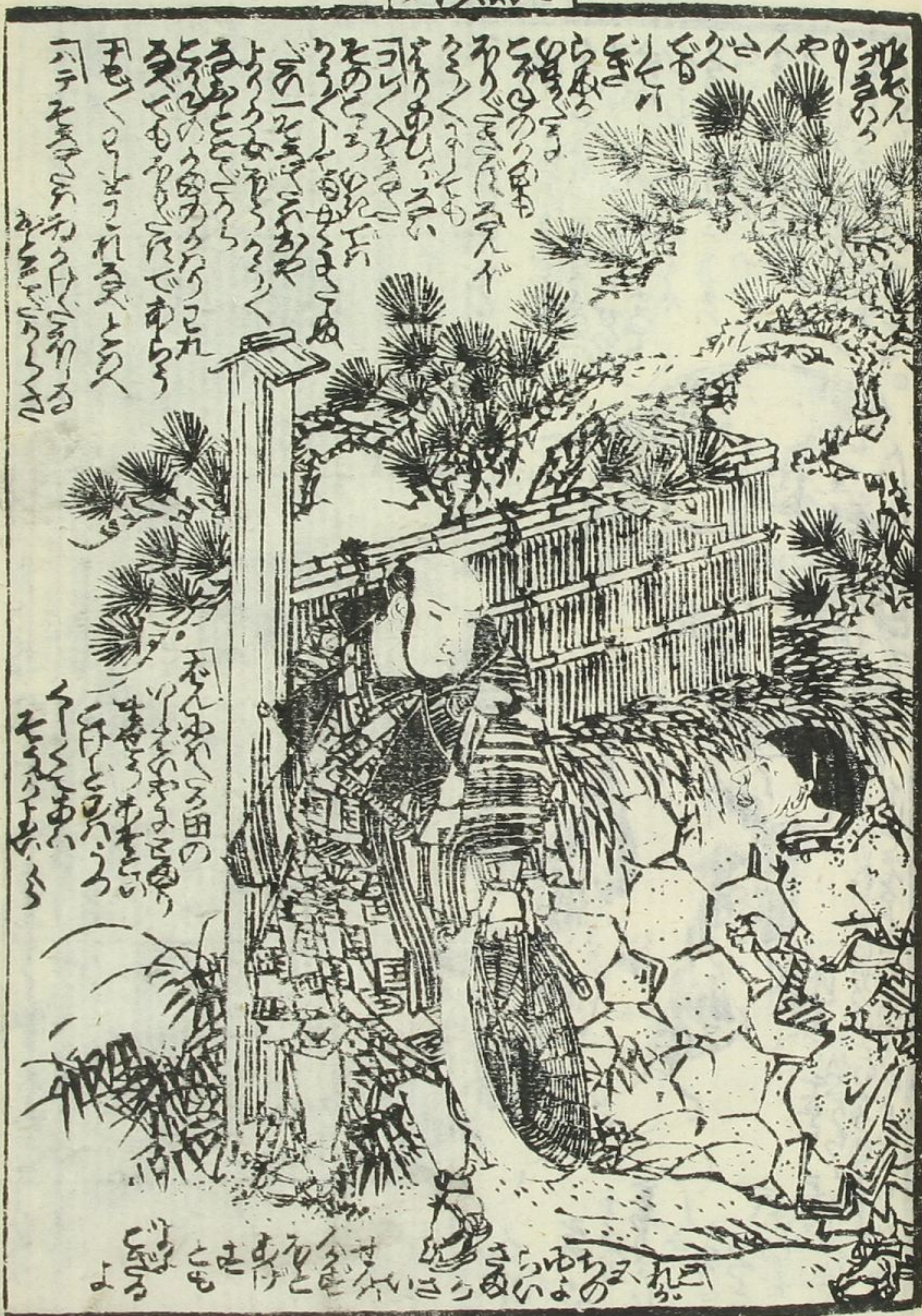
高田町の名を  
かたじけなく  
かたじけなく

附言  
越中直山系結道路の東部より中仙道を経て道分れ  
高田より高田の草鞋越後紀伊を中仙乃かび若光  
寺街乃高田の末子ありあつたこのまゝに  
高田より高田の草鞋越後紀伊を中仙乃かび若光  
寺街乃高田の末子ありあつたこのまゝに  
高田より高田の草鞋越後紀伊を中仙乃かび若光  
寺街乃高田の末子ありあつたこのまゝに

越中

二

長瀬



此の園に松竹ありて  
いかにて風情ありや  
されば人の心も  
さながら清らなるべし  
なりともいふべし  
をりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ

石の間に  
竹の影を  
松の影を  
竹の影を

よきこと  
よきこと  
よきこと

五智



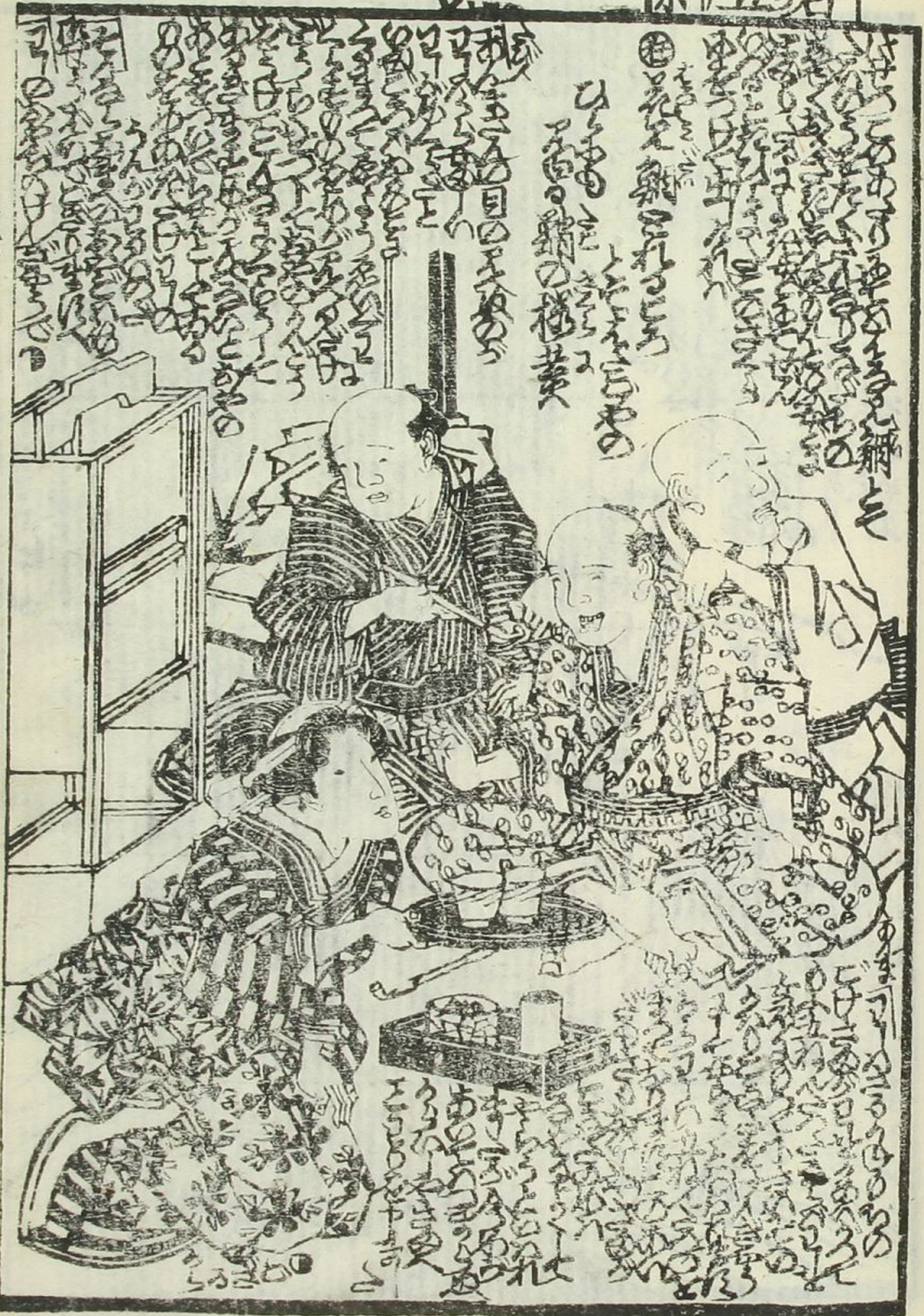
それより  
またいふ  
五智の  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ

またいふ  
五智の  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ  
ふりてかへりて  
こころの静けさ  
こそよきとせむ

た  
か

四

余行立名



有馬川



二 舖屋や治鐵



此の通りは、  
 江戸の中心地、  
 賑わいがある。  
 多くの店屋が  
 立ち並び、  
 人々が行き交う。  
 治鐵の店も  
 賑わっている。  
 治鐵は、  
 鉄の道具を  
 売る店だ。  
 治鐵の道具は、  
 江戸の町に  
 欠かせない。  
 治鐵の道具は、  
 江戸の町に  
 欠かせない。  
 治鐵の道具は、  
 江戸の町に  
 欠かせない。

二 能生



此の通りは、  
 江戸の中心地、  
 賑わいがある。  
 多くの店屋が  
 立ち並び、  
 人々が行き交う。  
 能生の店も  
 賑わっている。  
 能生は、  
 能楽の道具を  
 売る店だ。  
 能生の道具は、  
 江戸の町に  
 欠かせない。  
 能生の道具は、  
 江戸の町に  
 欠かせない。  
 能生の道具は、  
 江戸の町に  
 欠かせない。



返り駒



海

河



中

中

中

中

知可

行浪水



可多字



熊振



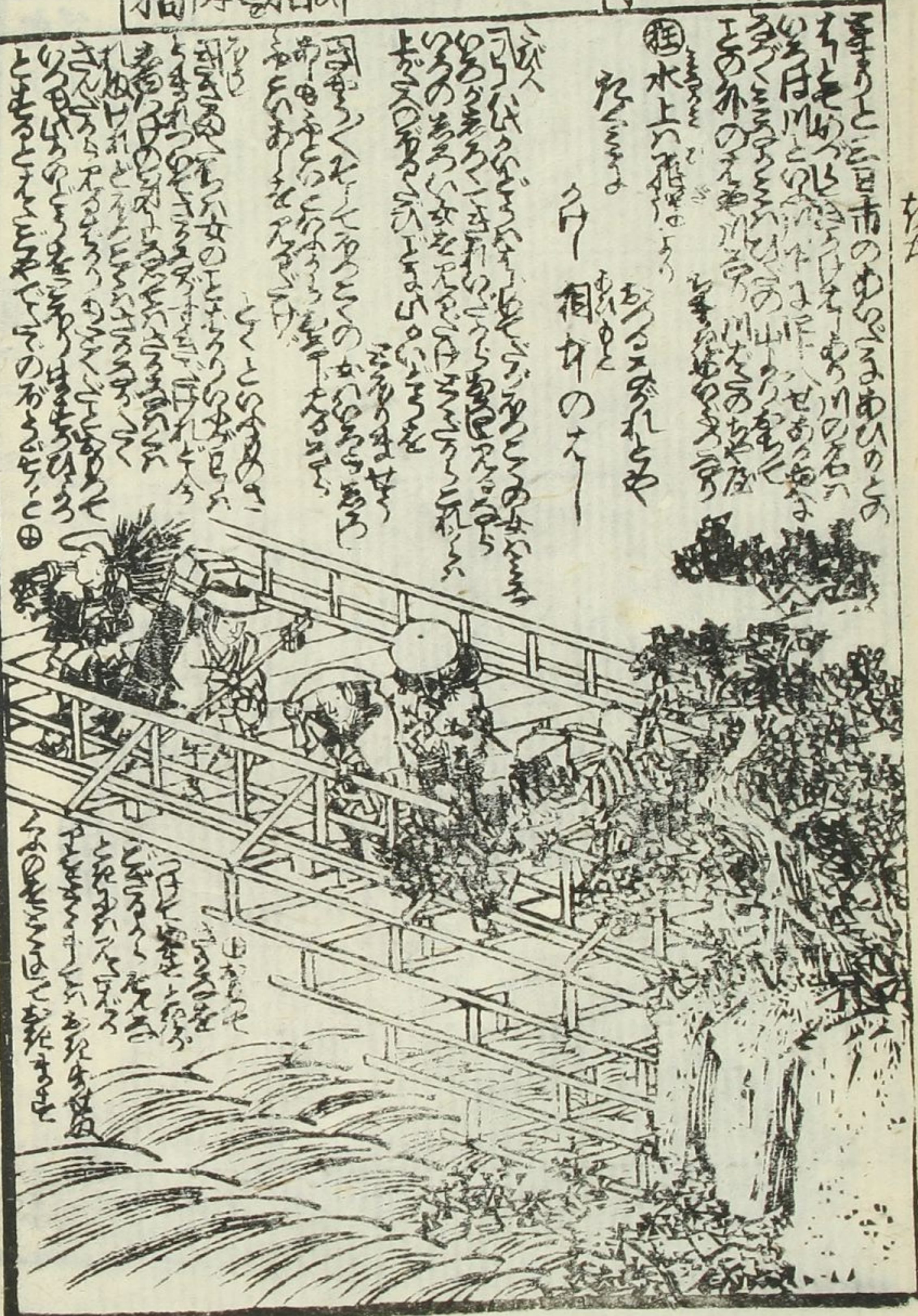
場



井行

伐牛

相本橋



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the bridge illustration, providing a narrative or commentary on the scene.

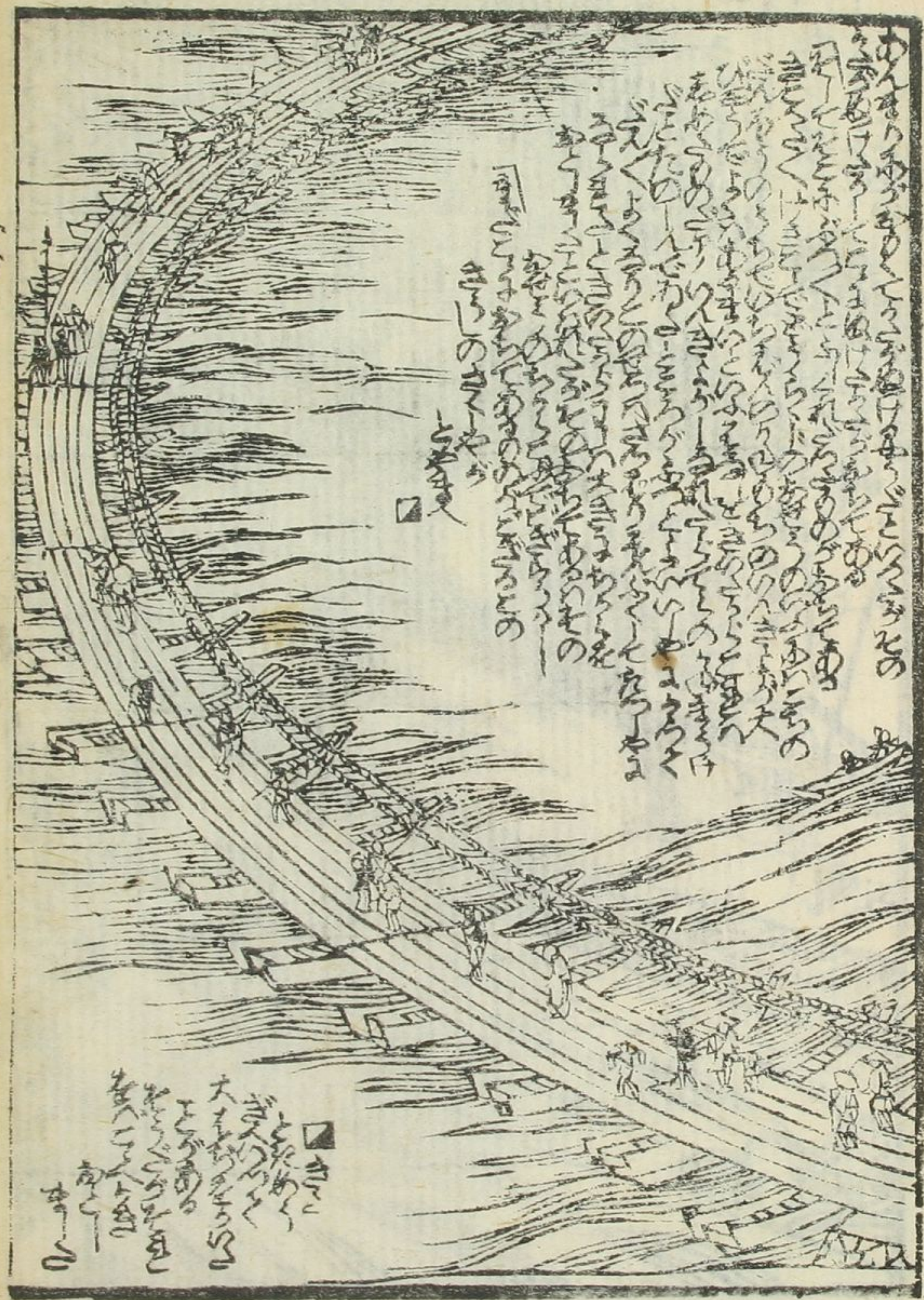
三日の市



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the market illustration, detailing the activities and atmosphere of the market.

津波の川





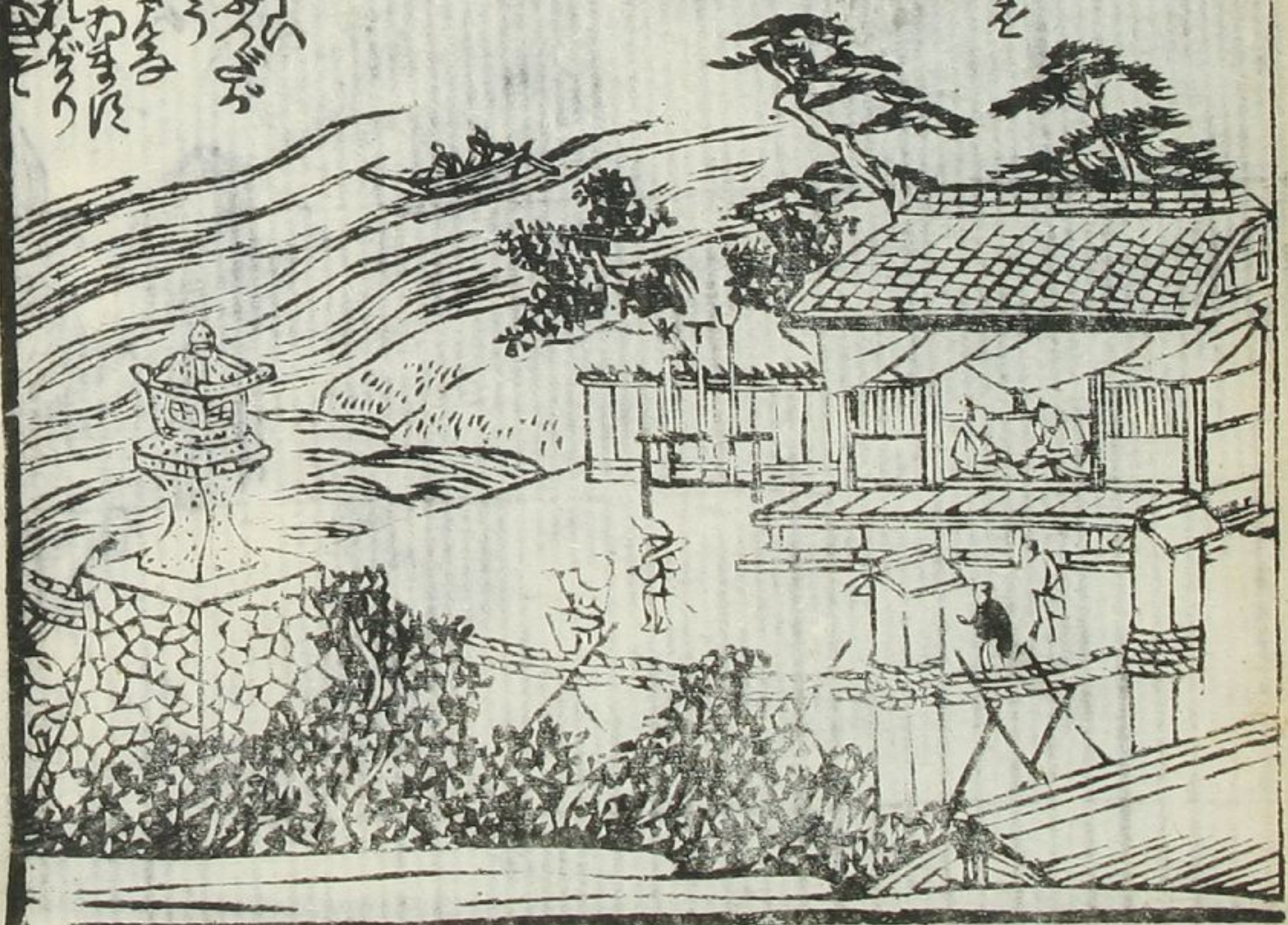
此の橋は長きこと千二百餘間ありて舟の往来に便なり...  
 舟の往来に便なり...  
 舟の往来に便なり...

舟の往来に便なり...  
 舟の往来に便なり...

橋舟山富と橋水

此の川の舟は舟の往来に便なり...  
 舟の往来に便なり...  
 舟の往来に便なり...

自由自在の川  
 舟の往来に便なり...







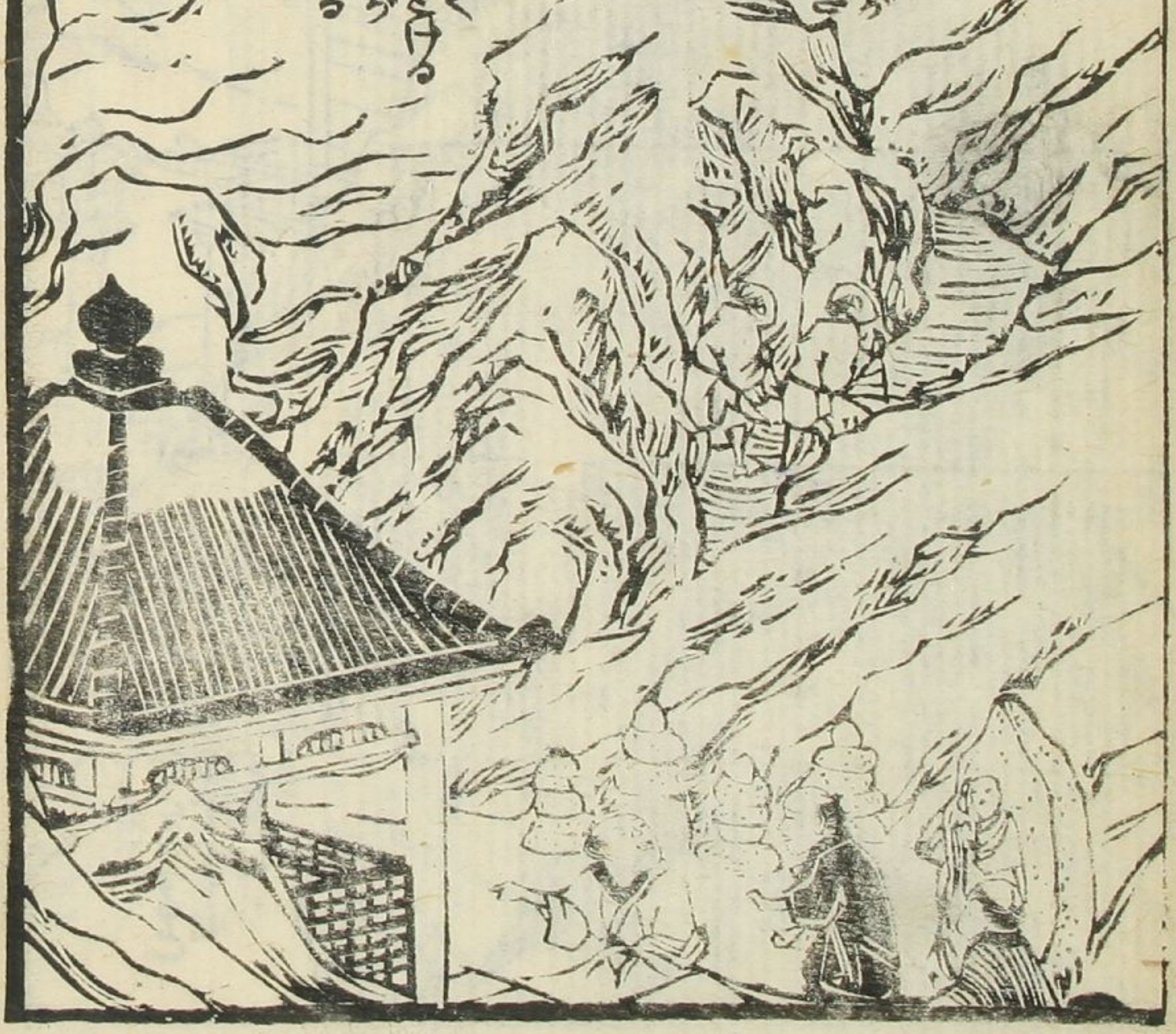






別山 社より 五十丁  
 後光石 橋立石  
 白山権現 折立  
 富士権現 蟻唐  
 渡 岩水王備  
 行者 抱石  
 別山帝釈天堂  
 大走 小走り  
 さの河原地

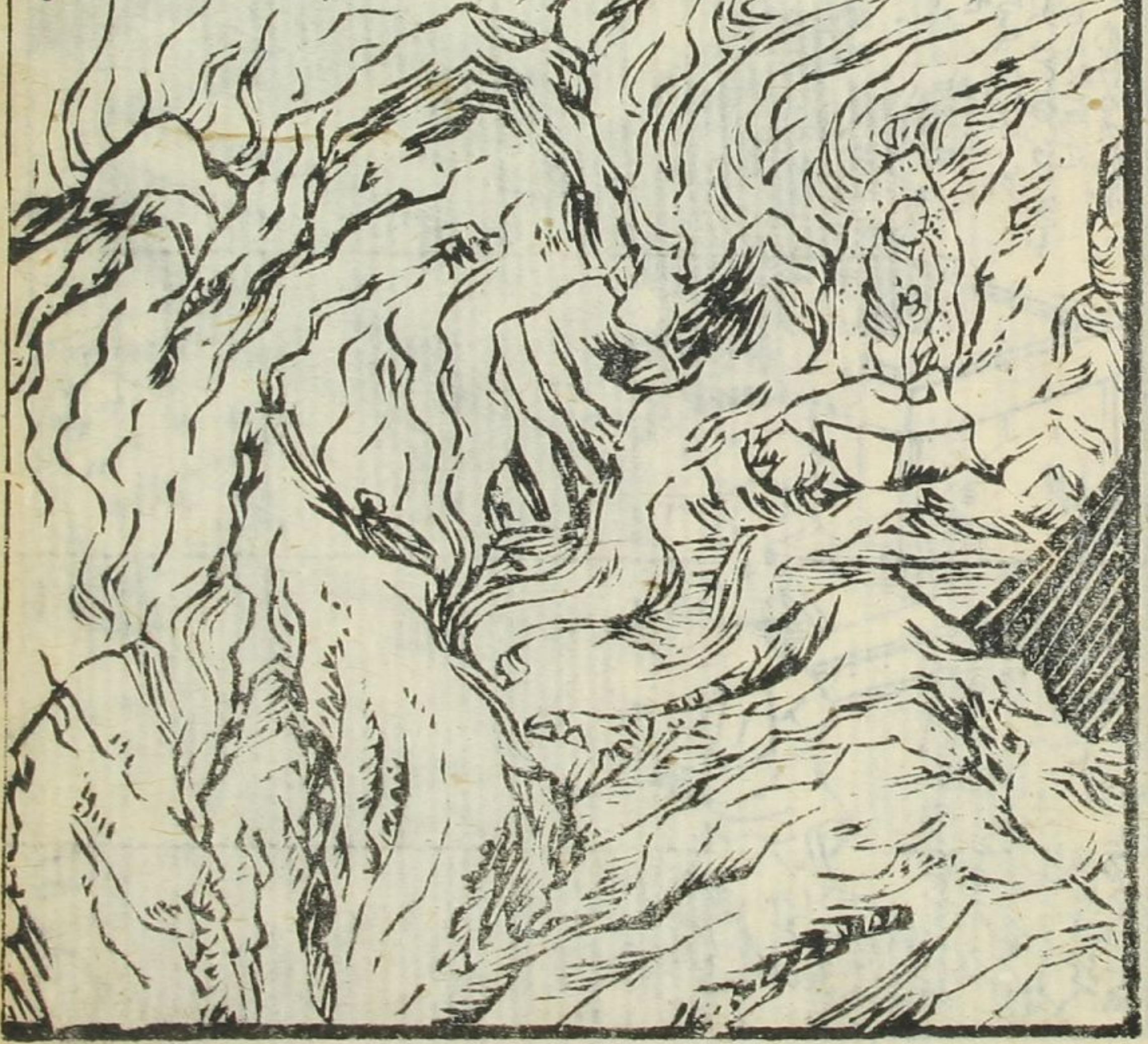
別山 社より  
 五十丁  
 後光石の  
 橋立石  
 白山権現の  
 折立  
 富士権現の  
 蟻唐  
 渡岩水の  
 王備  
 行者の  
 抱石  
 別山帝釈  
 天堂  
 大走 小走  
 り  
 さの河原地



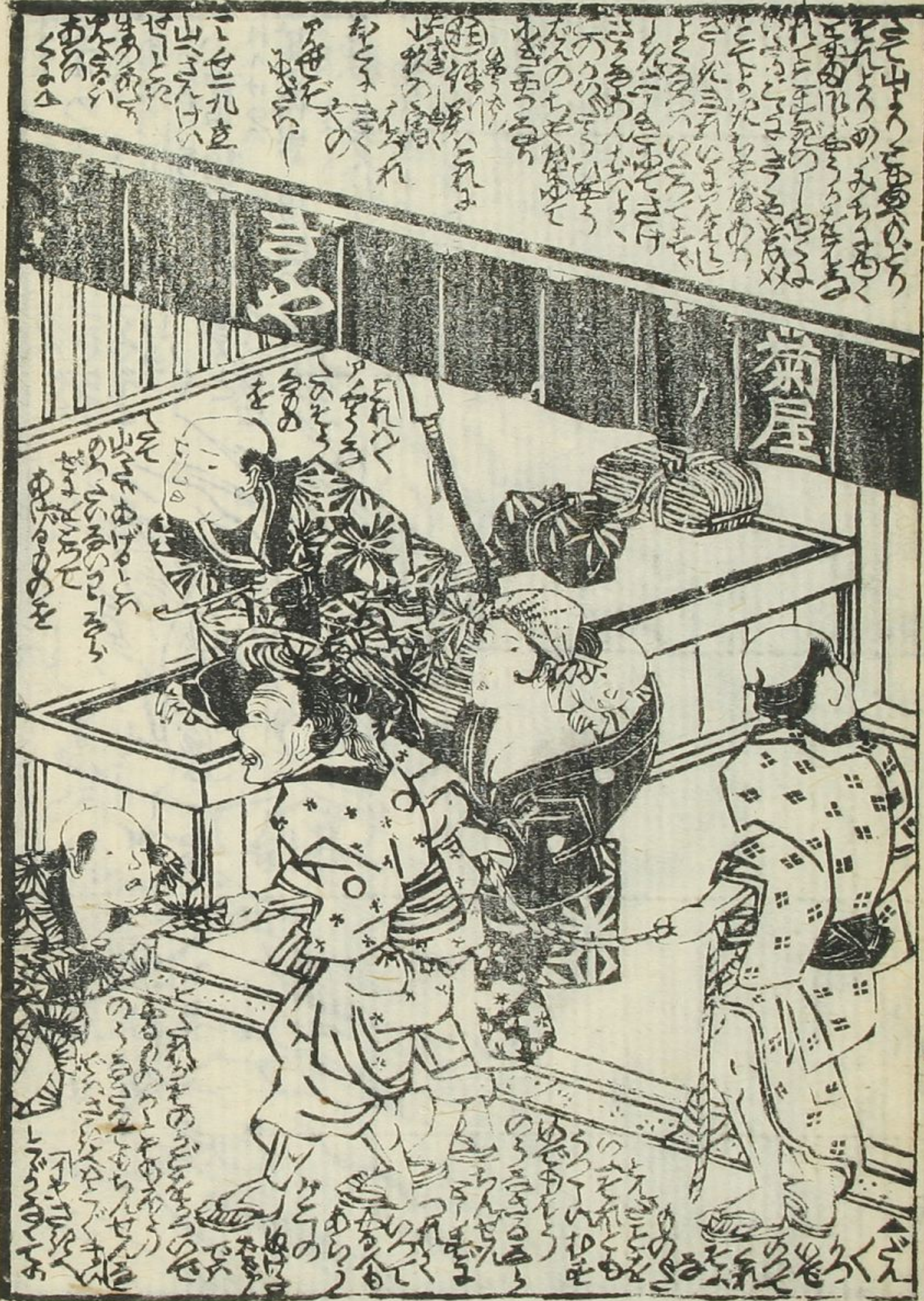
玉戸の窟 阿彌陀  
 末途の窟 八所  
 小窟 胎内  
 蓮花岩 揚木の  
 嶽 美久利の池  
 加四社 陀山  
 血の池

玉戸の窟  
 阿彌陀  
 末途の窟  
 八所  
 小窟  
 胎内  
 蓮花岩  
 揚木の  
 嶽  
 美久利の池  
 加四社  
 陀山  
 血の池

玉戸の窟  
 阿彌陀  
 末途の窟  
 八所  
 小窟  
 胎内  
 蓮花岩  
 揚木の  
 嶽  
 美久利の池  
 加四社  
 陀山  
 血の池

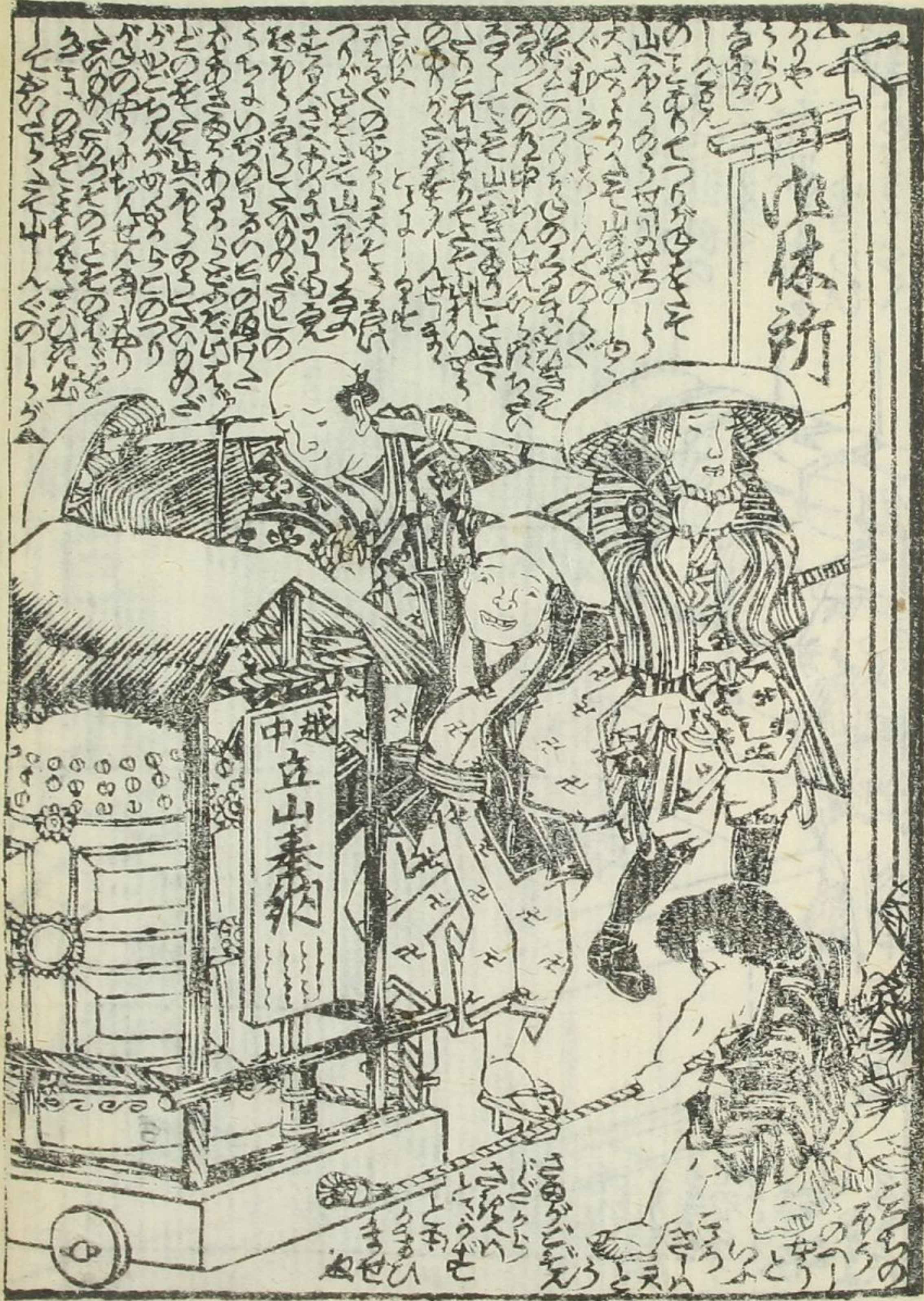


富山三小橋新



廿四

十八



廿五

十七

高岡



國見屋



Vertical text columns above the horse illustration, including the name '高岡' at the top.

Vertical text columns below the horse illustration.

山森



廿一

二

水見



廿一

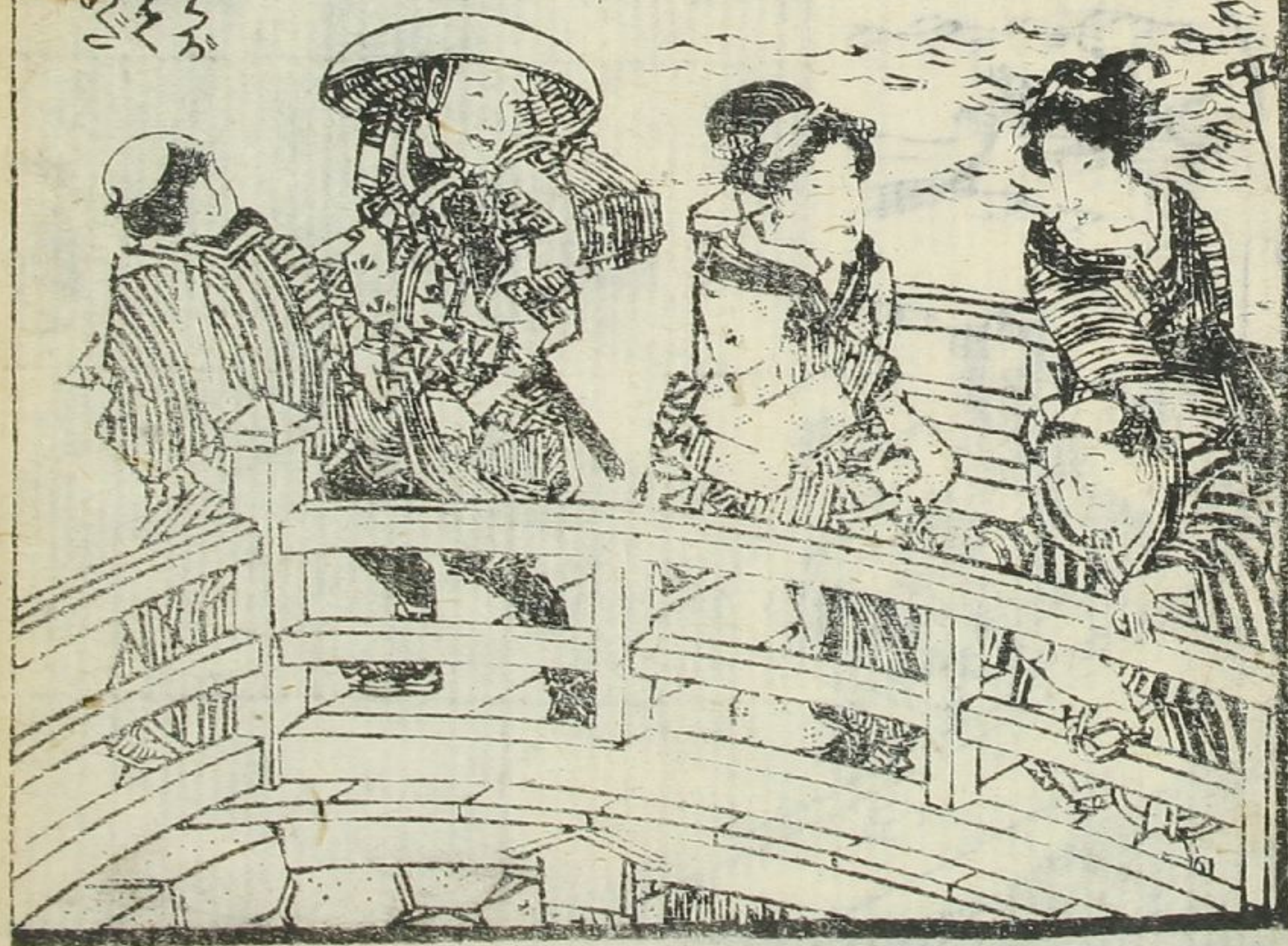
二

中山峠



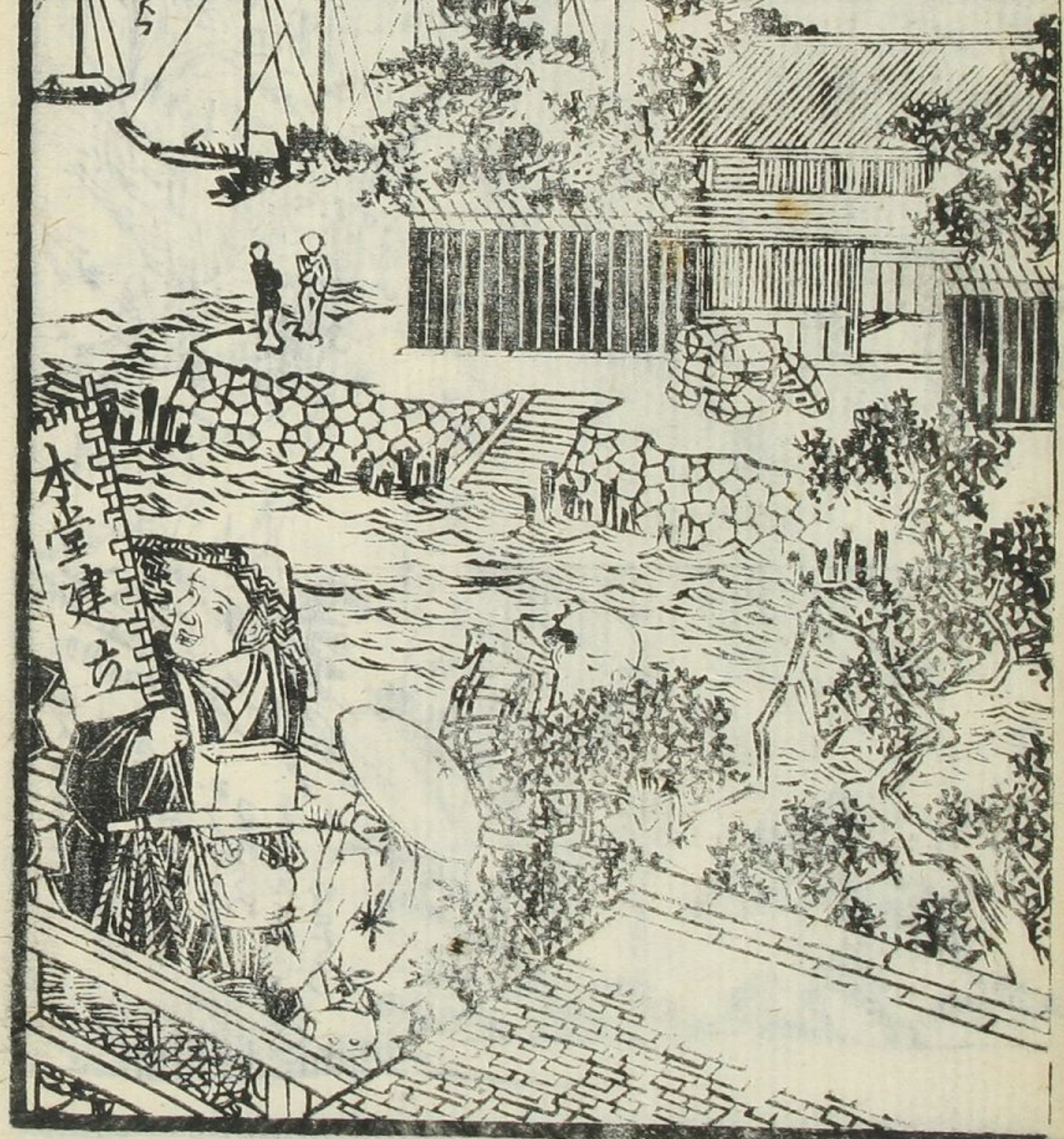
寺尾七

寺尾七の物語... 寺尾七は、この町に生まれ、この町で育ち、この町で死ぬ。...



新宮の二

新宮の二の物語... 新宮の二は、この町に生まれ、この町で育ち、この町で死ぬ。...



寺尾

新宮





廿五

廿五



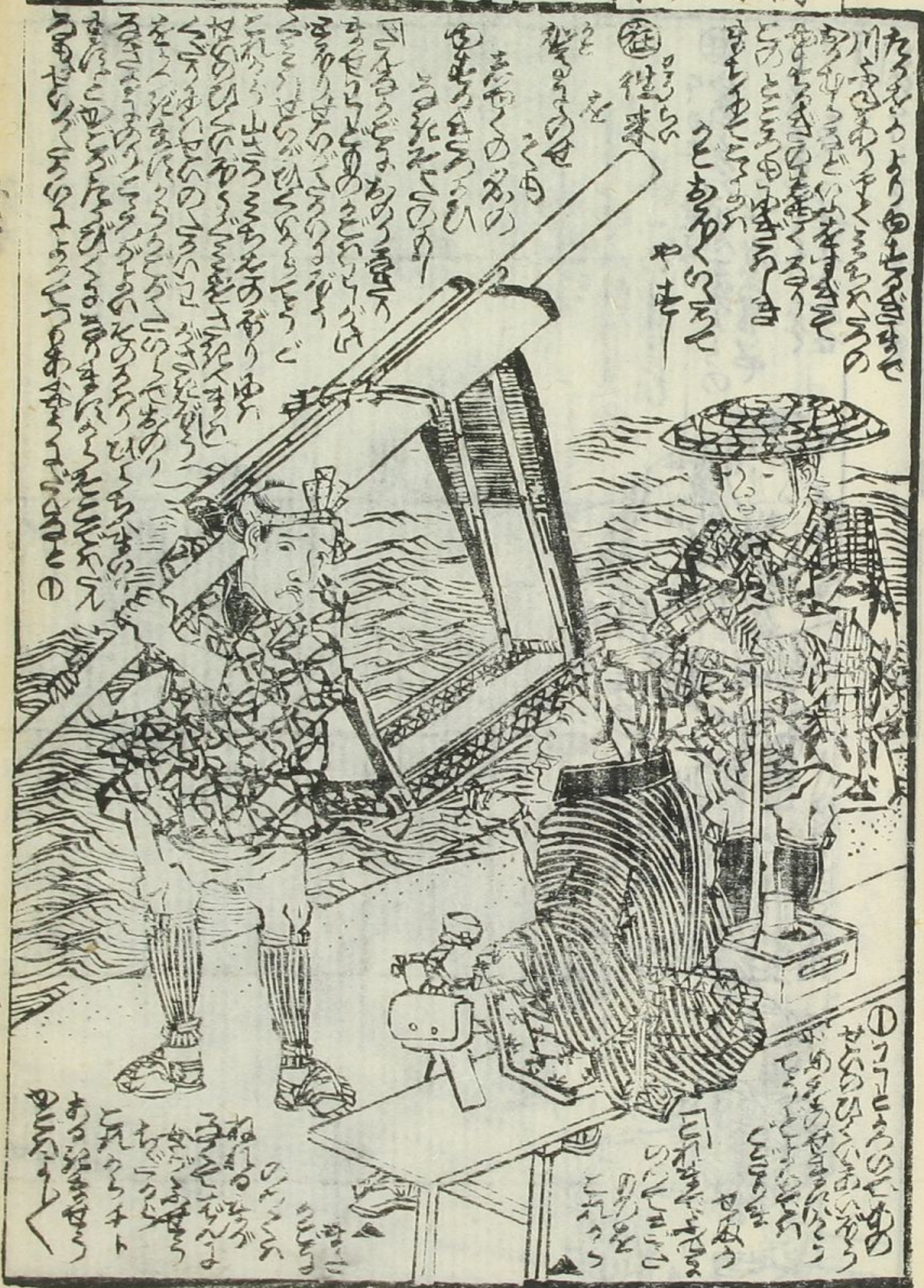
廿六

廿六



石動

高岡



峯羅の加利俱



廿九

九

此の世の事は...  
 しかるに...  
 しかるに...  
 しかるに...

茶のついで...  
 茶のついで...  
 茶のついで...



此の世の事...  
 しかるに...  
 しかるに...  
 しかるに...

茶のついで...  
 茶のついで...  
 茶のついで...

竹之の橋



この竹の橋は、昔から有名で、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。この橋は、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。

この橋は、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。この橋は、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。

ナセ

ナセ



この竹の橋は、昔から有名で、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。この橋は、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。

この橋は、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。この橋は、竹の葉が風に揺れる音が、旅人の心を癒す。橋の上を歩くと、まるで空を飛ぶような感じがする。

ナセ

ナセ

津畑





大

三

澤金



大

九

うりまのけしちちらぶらぎをまげのひら  
 ぬえつそまら白山もさはんりらうら  
 るれこれうらまらせんのとうをさうら  
 るれまらまらまらまらまらまらまら  
 中ちまら山まらまらまらまらまら  
 中ちまらまらまらまらまらまらまら

狂おれたらかくのけしちまら  
 狂おれたらかくのけしちまら  
 狂おれたらかくのけしちまら



○は中まらまらまらまらまらまら  
 中まらまらまらまらまらまらまら  
 中まらまらまらまらまらまらまら

方言 金草鞋  
 金草鞋  
 金草鞋

歌川國安画  
 十返舎一九作  
 貞  
 貞

かまらうらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら  
 まらまらまらまらまらまらまら



早稲田大学図書館

011688991945